

『2011年(1月～12月)JVA統計調査』について

当協会は3月13日(火)午後1時30分より、協会会議室において『2011年(1月～12月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2011年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.73』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2011年(1月～12月)の実績について

1. 2011年のビデオソフトの総売上は2610億8400万円で前年比98.0%となった。
上半期実績では前年同期比105.3%と前年同期を上回る実績であったが、震災による自粛傾向や世界的な経済の低迷などを背景に、下半期の実績が前年同期比92.1%となり、年間実績では前年割れすることとなった。
2. ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが2005億3000万円で前年比91.4%(構成比76.8%)と前年を割り込む一方で、ブルーレイが605億5400万円で前年比128.3%と伸長し、構成比も23.2%を占めるまでに拡大してきている。
3. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別に見てみると、「販売用」「レンタル店用」「業務用」のそれぞれの割合は、69.2：30.3：0.5となり、前年の比率とほとんど変化はなかった。
「販売用」全体の売上金額は1806億3300万円で前年比97.6%となった。5年ぶりに前年を上回った2010年に引き続いての前年越えが期待されたが、震災や不況といっ

た影響もあってか、わずかながら前年を下回る結果となった。「販売用」の全体金額における DVD ビデオとブルーレイの割合は 68.1 : 31.9 となり、ブルーレイの割合が増大してきている。「販売用」DVD ビデオの売上金額の前年比が 87.7%であったのに対し、「販売用」ブルーレイは同 128.6%と伸長しており、徐々に DVD ビデオからブルーレイへとシフトしてきている様子がうかがえる。

- 4 . ビデオソフト全体の「販売用」の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位は 29.6%を占める『日本のアニメーション(一般向け)』だったが、前年比は 96.6%とやや前年を割込んだ。2 位の『音楽(邦楽)』は構成比 22.2%を占め前年比 108.2%と好調、3 位の『洋画』は構成比 13.9%で前年比は 87.7%と割込んだ。続く『邦画』(構成比 6.4%)も同 87.3%、5 位の『芸能・趣味・教養』(構成比 5.2%)も同 88.3%となっている。

売上金額に占めるブルーレイの割合をジャンル毎に見てみると、『日本のアニメーション(一般向け)』は 58.2%を占めることとなり、ブルーレイの構成比が過半となった。

『音楽(邦楽)』は、前年は 4.1%に過ぎなかったが本年は 11.8%にまでに上昇、『洋画』も 38.5%から 47.5%に、『邦画』も 20.3%から 26.0%に上昇している。

- 5 . ビデオソフト全体の「レンタル店用」は、791 億 7600 万円で前年比 98.5%となった。

上半期の実績では前年同期比 106.4%と好調だったが、下半期は同 92.0%と前年同期を割込むこととなり年間実績はわずかながら前年にとどかなかった。レンタル全体に占めるブルーレイの割合は 3.7%に留まっており、前年の 2.9%に比較しても大きな伸長とはなっていない。

- 6 . DVD ビデオの「販売用」の売上金額は 1230 億 5900 万円で、前年比 87.7%と落ち込みが大きかった。売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位は『音楽(邦楽)』となり、シェアも前年の 25.3%から 28.7%へと上昇した。しかしながら、前年比は 99.6%となりわずかに前年にとどかなかった。構成比 2 位は『日本のアニメーション(一般向け)』で 18.2%を占め前年の 21.3%から 3%ほどシェアを落とした。同ジャンルは DVD ビデオからブルーレイへの移行が進んでいるため、前年比は 74.9%と縮小傾向が顕著になっている。3 位の『洋画』も構成比 12.5%から 10.7%に落とし、前年比は 74.9%となった。4 位は『芸能・趣味・教養』で構成比 7.1%、前年比 86.6%、5 位は『邦画』で構成比 7.0%、前年比 81.0%となり、主だったジャンルで軒並み前年を割込むこととなった。

- 7 . DVD ビデオの「レンタル店用」売上金額は 762 億 6900 万円で前年比 97.7%となった。

DVD ビデオの「レンタル店用」の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション(一般向け)』の構成比(18.9%)がはじめて『洋画』の構成比(17.8%)

を抜いて1位となった(ブルーレイの「レンタル店用」と合計すると、『洋画』が1位(19.8%)、『日本のアニメーション(一般向け)』が2位(18.5%)。『日本のアニメーション(一般向け)』の前年比は102.7%と伸長したのに対し、『洋画』は同73.5%と大きく後退した。『邦画』が構成比3位(16.9%)となり前年比130.5%と好調だった。4位(14.2%)の『海外のTVドラマ』は同93.5%と割込んだが、5位(11.3%)の『アジアのTVドラマ』は同110.5%と好調だった。

数量における構成では、レベニューシェアリングシステムの導入率が高い『洋画』(構成比21.4%)、『海外のTVドラマ』(同21.0%)、『アジアのTVドラマ』(同11.3%)が大きなシェアを占めたが、それぞれ前年比80.3%、92.4%、98.4%と前年を割込むこととなった。4位の『邦画』(同11.3%)と5位の『日本のアニメーション(一般向け)』(同11.1%)は前年比118.2%、106.9%となり、金額と同様に前年を上回った。

8. ブルーレイの売上金額は605億5400万円で前年比128.3%と伸長した。

ブルーレイの売上金額のうち95.1%を「販売用」が占め、575億7400万円(前年比128.6%)となった。「販売用」の売上金額をジャンル別に見てみると、半分以上の54.0%を『日本のアニメーション(一般向け)』が占めた(前年比122.0%)。続いて『洋画』が20.6%を占めて2位(前年比108.2%)となった。『音楽(邦楽)』が前年比307.8%と大きく伸長し、構成比3位(8.2%)につけた。『邦画』の構成比は5.2%で前年比112.1%、第4位となった。数量においても構成比の順は金額と同様となり、『洋画』が前年比87.8%と割込んだほかは主だったジャンルで前年を上回った。

一方、「レンタル店用」は29億700万円でブルーレイの売上金額全体の4.8%にとどまっている。売上金額のジャンル別では未だ偏りが見られ、『洋画』が70.5%を占めているが、前年比98.1%と割込んだ。第2位の『邦画』の構成比は12.0%と『洋画』には大きく水をあけられているが、前年比では1750.0%と大きな伸長となった。

本年調査からの変更点・・・2011年調査から、UMDを調査の対象外とした。そのため、ビデオソフト全体の売上の前年比を算出するには、2010年の実績からUMDの実績を除いた数値を用いて比較している。

以 上